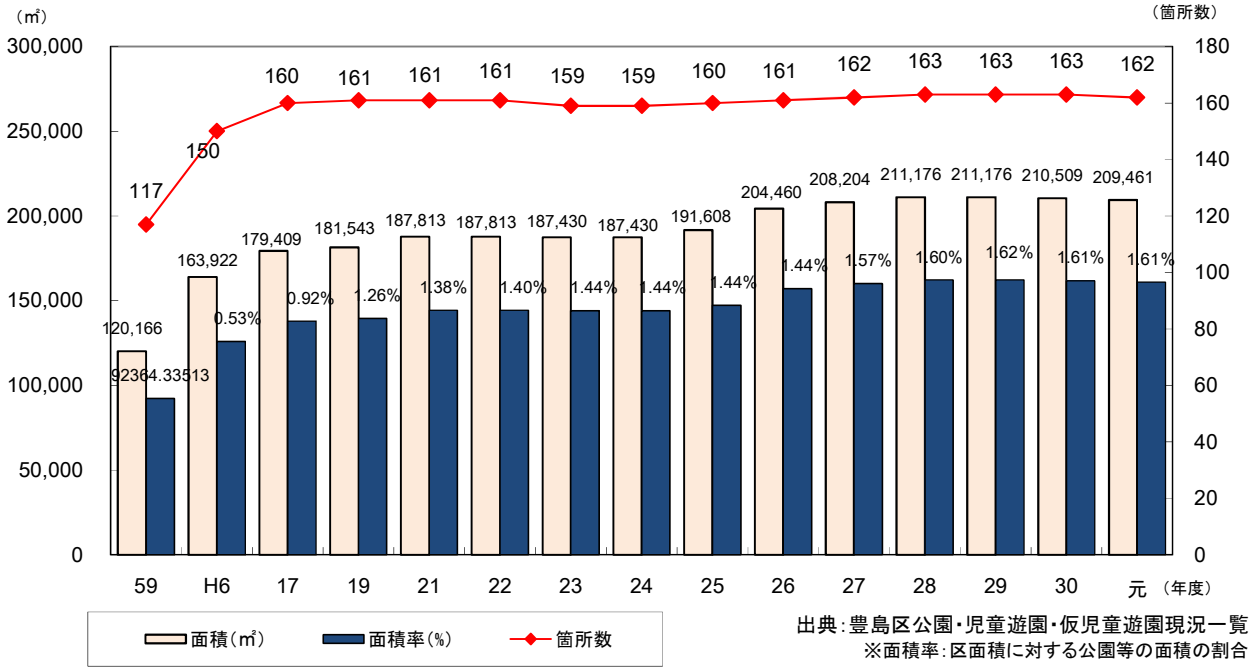
５．みどりのネットワークを形成する環境のまち

１．みどりの創造と保全

１．公園等の整備状況

公園等（児童遊園、仮児童遊園、庭園含む）

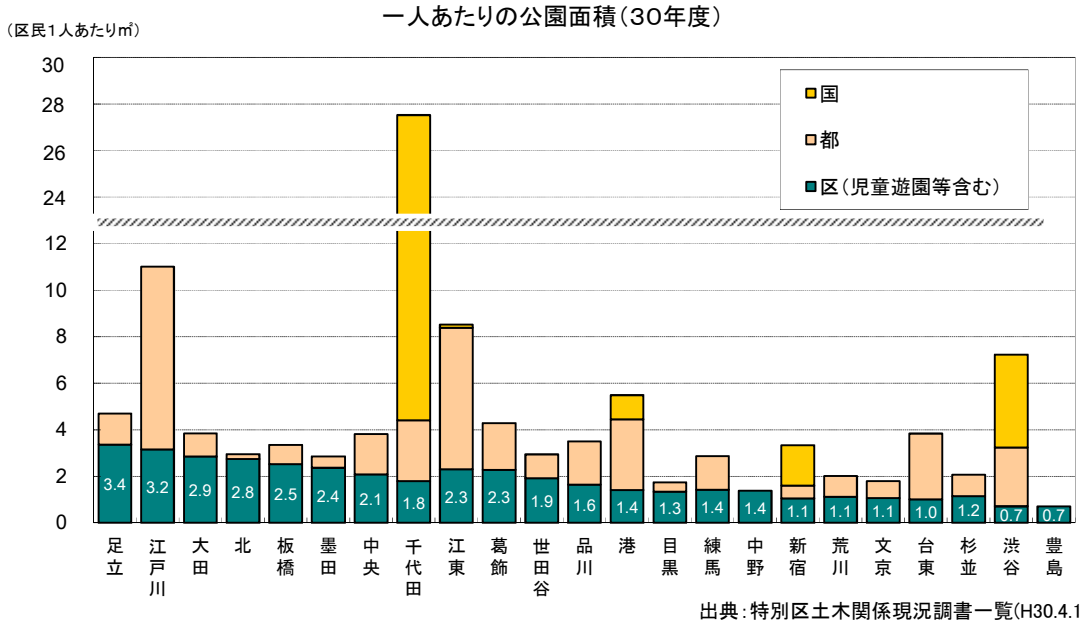


出典：豊島区公園・児童遊園・仮児童遊園現況一覧
※面積率：区面積に対する公園等の面積の割合

２．一人あたりの公園面積 23 区比較

豊島区は国立・都立公園が無く、大規模公園が無いため、一人当たりの公園面積は 23 区中最下位となっている。

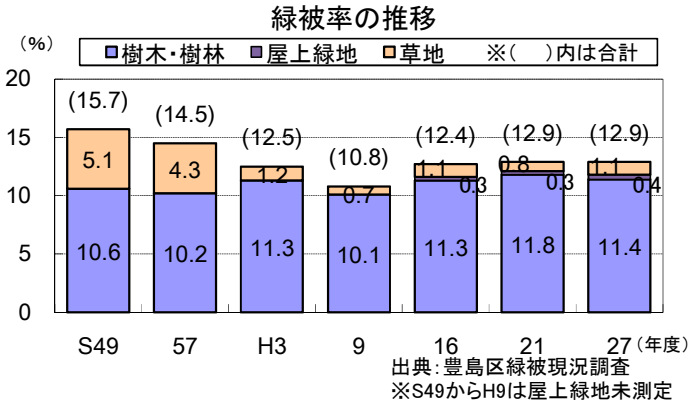
一人あたりの公園面積（30年度）



出典：特別区土木関係現況調書一覧(H30.4.1)

３．緑被率の推移

平成 16 年調査で、それまで減少傾向にあった緑被率に歯止めがかかったが、平成 21 年調査でも平成 16 年から 0.5 ポイント増加した。なお、緑被率における樹木の割合は、ほぼ横ばいであった。



「平成27年度緑被現況調査結果より」

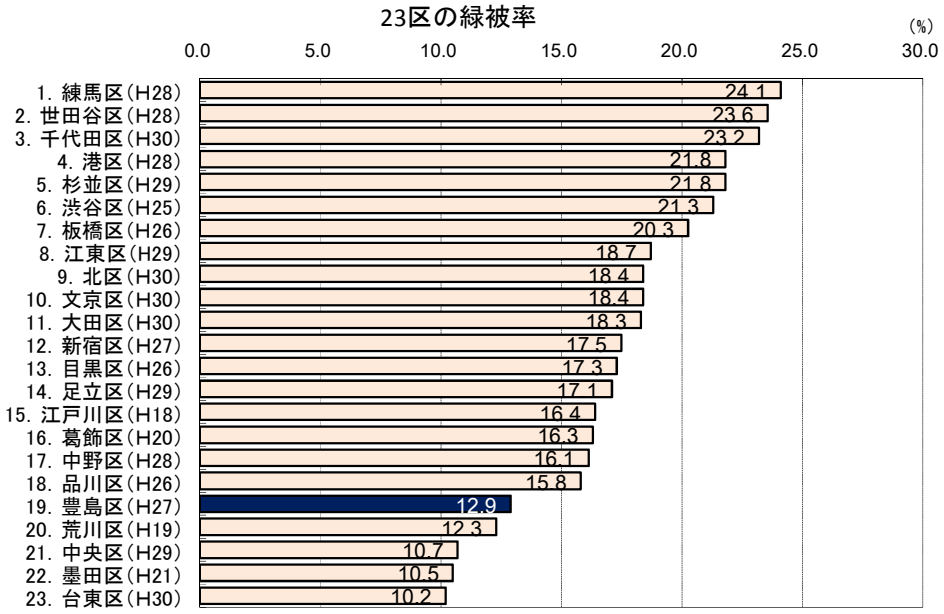
項　目			面積（ha）	率
人工構造物被覆地以外			190.2	14.6%
	緑被地		167.2	12.9%
		樹木被覆地	147.9	11.4%
		草地	14.1	1.1%
		屋上緑化	5.2	0.4%
	裸　地		22.1	1.7%
	水　面		0.9	0.1%
人工構造物等被覆地			1,110.8	85.4%
合　計			1,301.0	100.0%

緑被総面積は 167.2ha、緑被率は 12.9%である。緑被面積の 88%を樹木が占めており、緑被面積に公園の裸地面積（9.0ha=0.69%）と河川等（0.9ha=0.1%）の水面面積を加えたみどり率は 13.6%で、緑被率との差はわずか 0.7%である。

公園面積は 21.3ha だが、公園の緑被地面積は 12.3ha で、公園に占める緑地の割合は 57.8%となっている。

４．23 区の緑被率

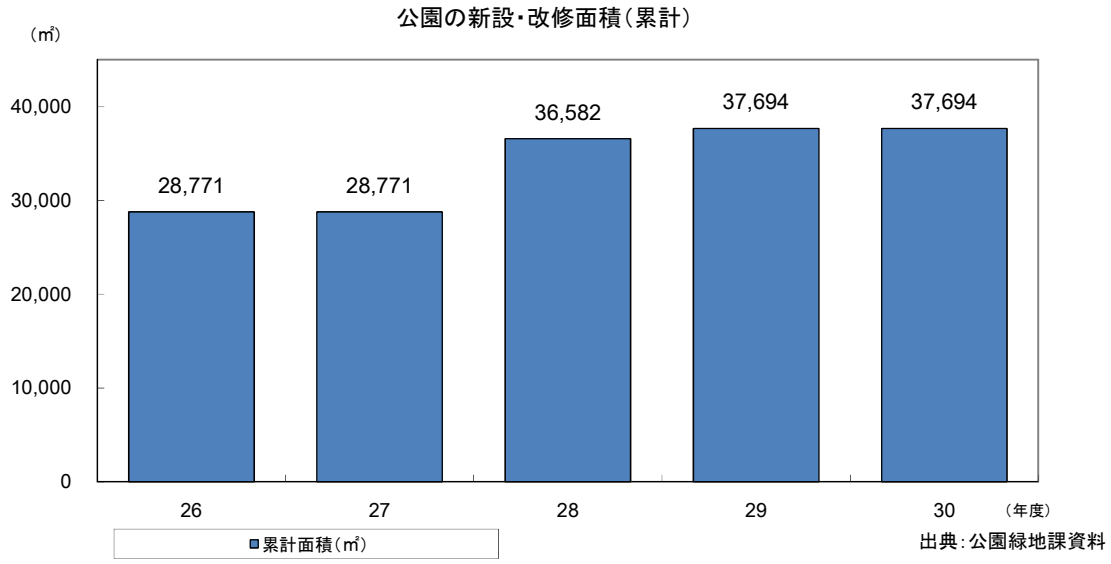
豊島区の緑被率 12.9%を他の区と比較すると 19 位となる。ただし、各区の緑被率の調査方法、精度、年度等は異なるため、比較はあくまでも参考とする。



出典：平成27年度豊島区緑被現況調査報告書と各区のみどりの基本計画および緑被実態調査
※（　）内は各区における調査年度
各区の緑被率の調査方法、精度、年度等は異なるため、比較はあくまでも参考

５．公園の新設・改修面積

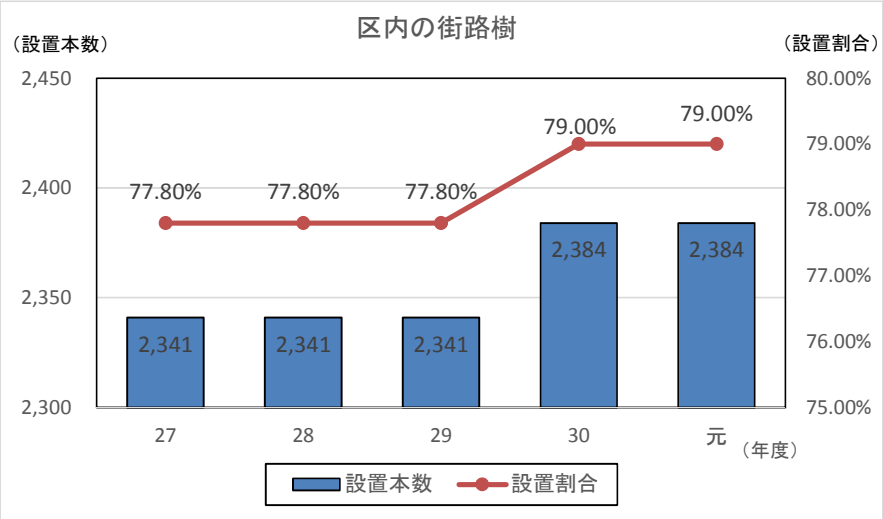
平成 29 年度にリニューアルオープンとして開設した小鳥がさえずる公園を整備面積に算入。今後は、造幣局跡地、高田小学校跡地、中池袋公園、池袋西口公園の整備が控えている(31 年度）。



【基本計画2016-2025　施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度〈現状〉	平成32年度〈前期目標〉	平成37年度〈後期目標〉
公園の新設・改修面積（累計）	28,771㎡	58,100㎡	67,100㎡

６．区内の街路樹



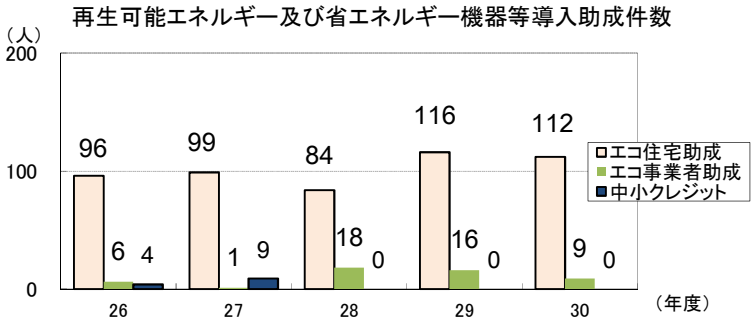
【基本計画2016-2025　施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度〈現状〉	平成32年度〈前期目標〉	平成37年度〈後期目標〉
街路樹の設置割合	77.8%	80.0%	87.0%

２．環境の保全

１．再生可能エネルギー及び省エネルギー機器等導入件数

エコ住宅助成は、国の補助金がなくなったことや東日本大震災の影響が薄れたことなどにより、太陽光発電システムの件数が減少し、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム（エネファーム）、LED 照明器具（集合住宅共用部分）、断熱改修窓の件数が伸びている。事業者向けの助成制度は、28 年度から制度を改定して 1 つにした結果、件数が増えている。



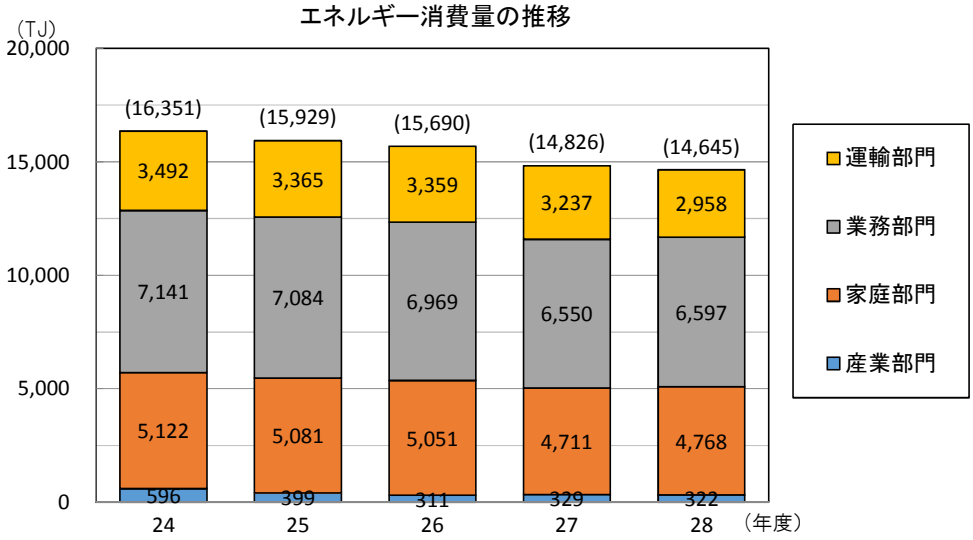
出典：環境政策課作成資料

【基本計画2016-2025　施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度 〈現状〉	平成32年度 〈前期目標〉	平成37年度 〈後期目標〉
再生可能エネルギー及び省エネルギー機器等導入助成件数（累計）	1,496件	2,100件	2,600件

２．エネルギー消費量の推移

28 年度は、前年度と比較し、1.2%の減少となったが、部門別では家庭部門、業務部門で前年度より微増となっている。



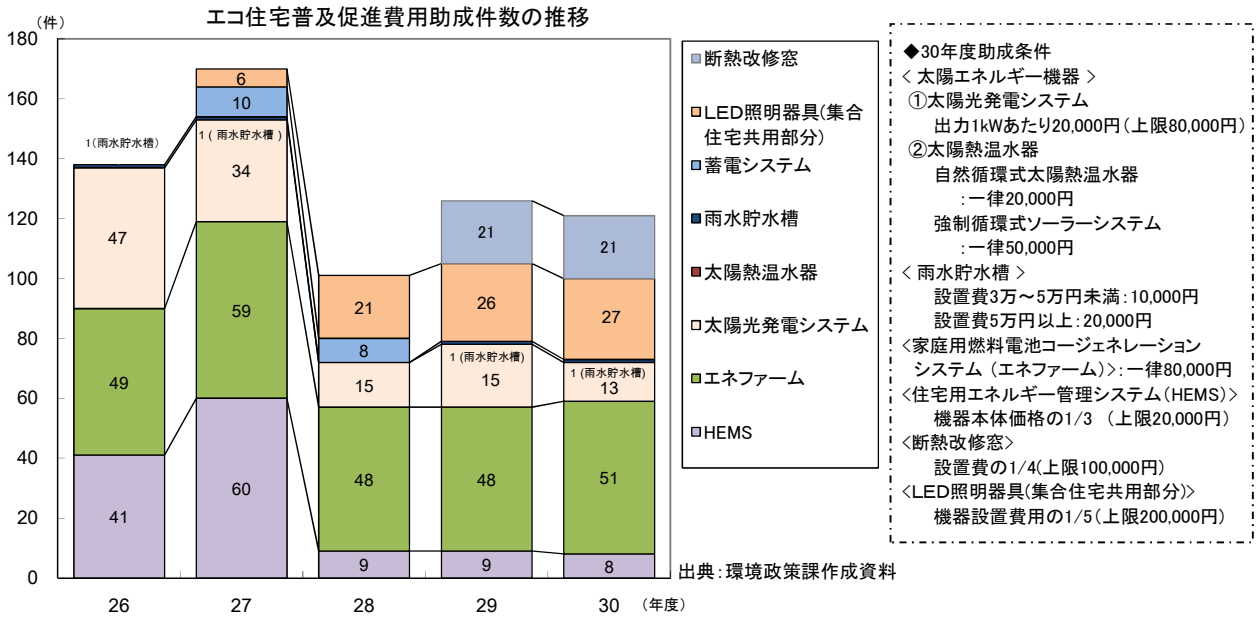
出典：「特別区の温室効果ガス排出量」オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」

【基本計画2016-2025　施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度 ＜現状＞	平成32年度 ＜前期目標＞	平成37年度 ＜後期目標＞
エネルギー消費量（単位：TJ）	15,690 （平成17年度比13.0%減）	15,452 （平成17年度比14.3%減）	13,528 （平成17年度比25%減）

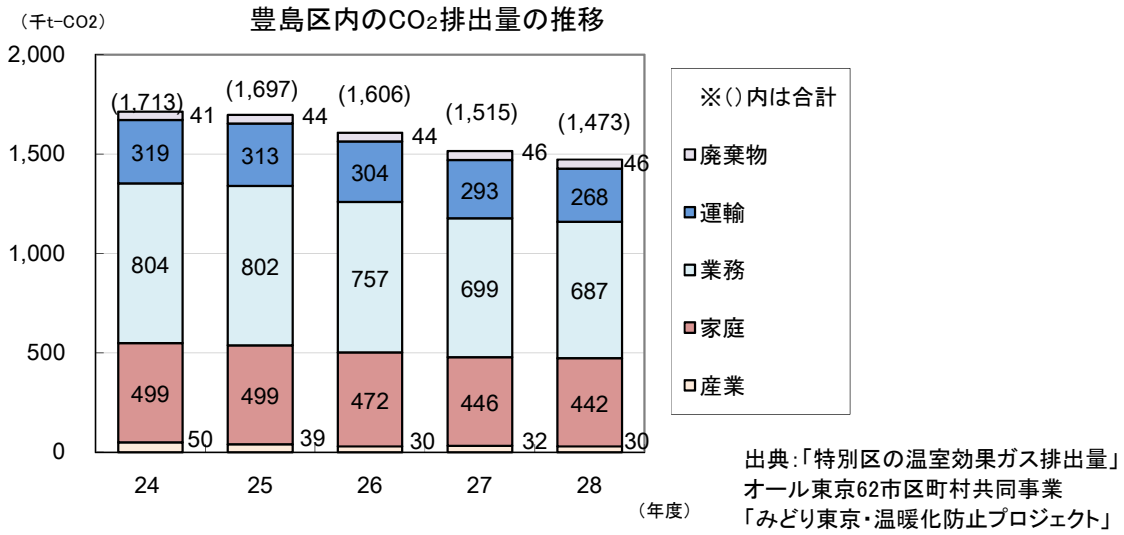
３．エコ住宅普及促進費用助成件数の推移

エネファーム、断熱改修窓、ＬＥＤ照明器具(集合住宅共用部分)には、安定した申請がある。



４．豊島区内 CO_2 排出量の推移

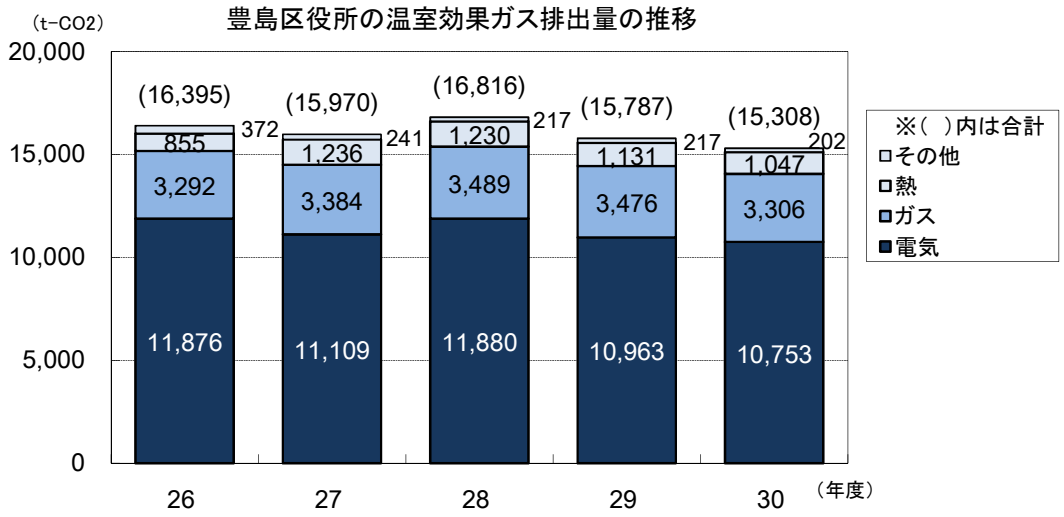
CO2 排出量を部門別にみて、一番多く割合を占めているのは、業務部門（事務所ビル、ホテル、病院等）で、２番目に家庭部門、３番目に運輸部門である。これら３部門に関して平成 26 年度からの減少がみられ、区内の CO2 排出量減少の要因となっている。



５．豊島区役所の温室効果ガス排出量の推移

「第三次豊島区役所地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」（平成 29 年 3 月）で「平成 27 年度を基準年として、平成 35 年度までに排出量を 19.3%以上削減」の目標を掲げ、平成 30 年度は平成 27 年度比で 4.1%削減した。

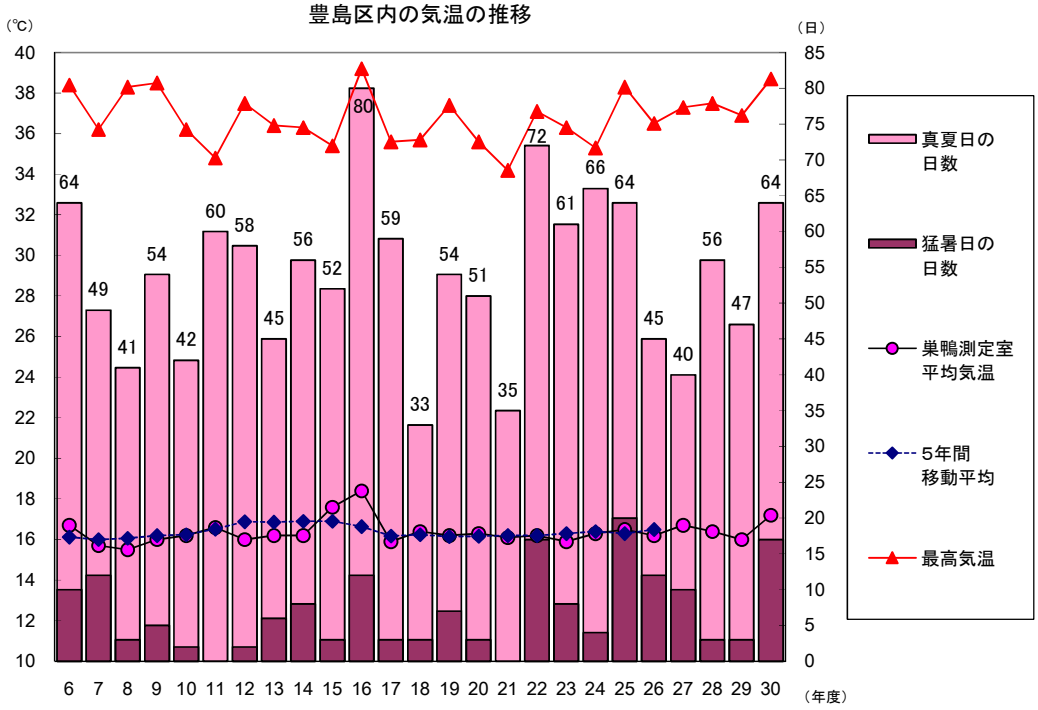
今後も豊島区役所が地球温暖化対策に率先して取組むことで、事業者や区民に対しても環境に配慮した事業活動やライフスタイルへの転換を促していく。



出典：環境政策課作成資料

６．豊島区内の気温の推移

豊島区内の平均気温の５年間移動平均値は、平成 6 年度以降 16℃を超えている。真夏日（最高気温が 30℃以上の日）の日数も、年間 50 日を超える年が多くなっている。

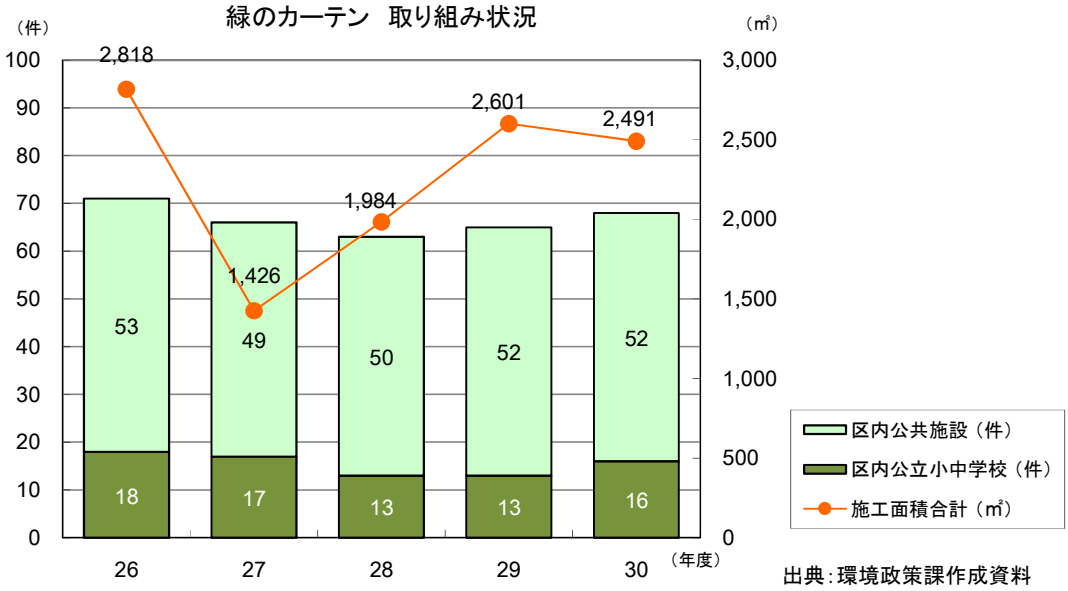


出典：環境保全課作成資料
※5年間移動平均値：例えばH6年度16.0℃は、H6からH10年度の向う5年間の平均値。
（27年度以降はデータが5年分ないため未算出）
※真夏日：最高気温が30℃以上の日、猛暑日：真夏日のうち最高気温が35℃以上の日
※平成25年度は巣鴨測定室の気象計故障のため、長崎測定室の記録を記載。

７．緑のカーテン取り組み状況

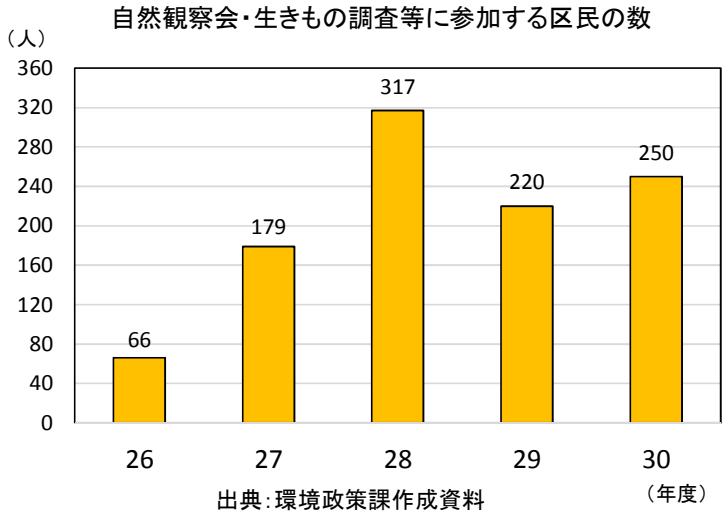
緑のカーテンづくり事業は、平成 18 年度から 3 か年のモデル事業を経て、公共施設へと取組みを拡大している。

30 年度は、学校での取組件数は前年度より増加したが、夏の荒天により施工面積合計の数値は前年度を下回った。



８．自然観察会・生きもの調査等に参加する区民の数

平成 26 年度より、昆虫や植物など区内の身近な生きものの観察や調査を行う、区民参加型生きもの調査を行っている。また、区役所１０階屋上庭園「豊島の森」や、みらい館大明などで自然観察会等を開催し、生物多様性についての普及啓発を行っている。

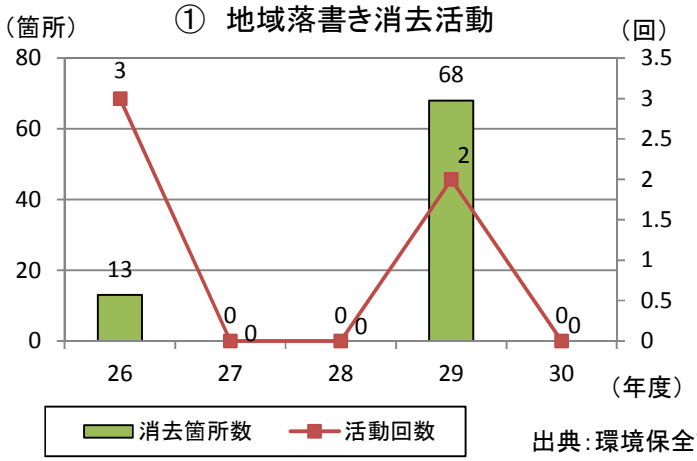


【基本計画2016-2025　施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度〈現状〉	平成32年度〈前期目標〉	平成37年度〈後期目標〉
自然観察会、生き物調査等に参加する区民の数（累計）	66人	1,030人	1,780人

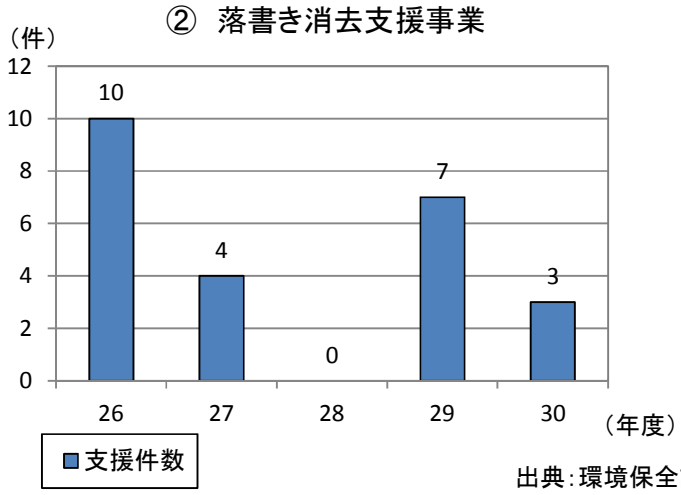
９．落書き消去の活動実績

落書きは街の美観を損ねるばかりでなく、治安の悪化を招くとも言われている。きれいで安全・安心なまちづくりを進めていくため、区では以下の取組を行っている。



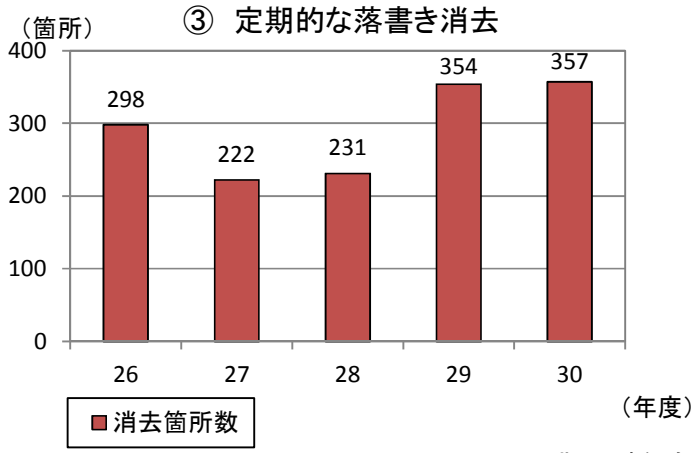
出典：環境保全課作成資料

区内の一定のエリアに描かれた落書きを一斉に消去するため、平成 17 年５月から、地域のボランティア、町会や商店会、警察署との協働により、地域落書き消去活動を行なっている。



出典：環境保全課作成資料

自宅の壁などに落書きされた場合、ご自分で落書きを消すことができるよう、落書きの消去方法のアドバイスや消去剤の提供などを行っている。

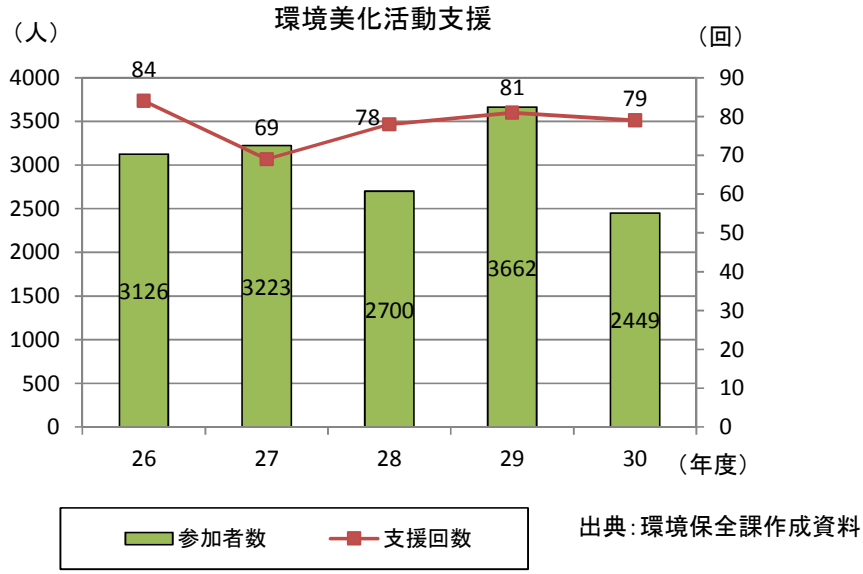


出典：環境保全課作成資料

区では、街の美観を損なっている落書きの消去活動を定期的に実施している。

１０．環境美化活動の参加人数

環境美化の推進を図るため、自主的に美化清掃活動を行うボランティアなどの団体に対し、区では清掃用具の貸し出しを行っている。



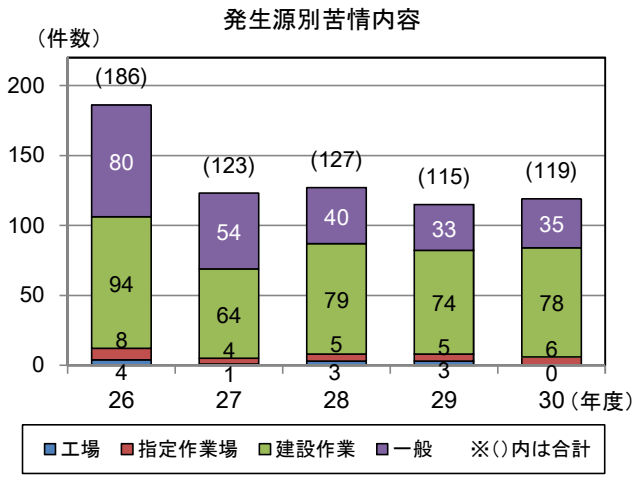
出典：環境保全課作成資料

【基本計画2016-2025　施策の達成度をはかる指標】

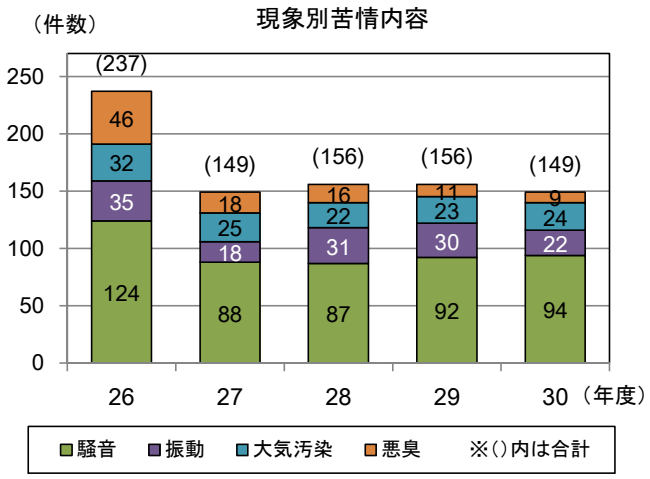
指標名	平成26年度〈現状〉	平成32年度〈前期目標〉	平成37年度〈後期目標〉
環境美化支援活動の参加人数	3,126人	3,500人	4,000人

１１．公害苦情内容

苦情の大半は建設作業と一般のもので工場や指定作業場などからの公害苦情は少ない。



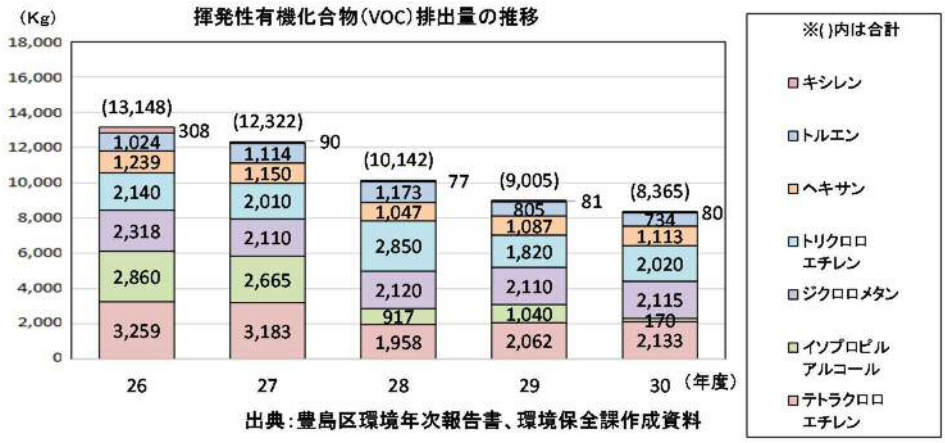
出典：「環境年次報告書」



出典：「環境年次報告書」

１２．VOC 排出量

光化学スモッグや PM2.5 の原因となる揮発性有機化合物（VOC）の排出抑制のため、区では VOC を取り扱っている事業所への立入指導を行っている。



出典：豊島区環境年次報告書、環境保全課作成資料

【基本計画2016-2025　施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度〈現状〉	平成32年度〈前期目標〉	平成37年度〈後期目標〉
揮発性有機化合物（VOC）排出量	13,148kg	10,684kg	8,987kg

１３．大気中のダイオキシン類の調査結果

ダイオキシン類は物の焼却の過程などで自然に生成してしまう物質である。大気中の濃度については、年々減少傾向にあり、大気環境基準値と比較すると、その濃度は基準をかなり下回っている。

大気中のダイオキシン類測定値　（年4回調査の平均値）

（単位：pg-TEQ/㎥）

年度	調査地点	
	区民ひろば清和第二	公園管理事務所※
26	0.025	0.023
27	0.027	0.024
28	0.021	0.021
29	0.021	0.021
30	0.023	0.022

出典：環境保全課作成資料

【大気環境基準値】
0.6pg-TEQ/㎥以下（「環境年次報告書」より）

【環境基準】
環境省の告示では「大気の汚染に係る環境上の条件につき、人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準」とされており、「ダイオキシン類に関する科学的な知見が向上した場合基準値を適宜見直す」こととなっている。

※29年度までは旧長崎健康相談所で測定

１４．道路の環境基準達成状況

騒音に係る環境基準

地域	地域の区分	時間の区分	
		昼間（6～22時）	夜間（22～6時）
第1種低層住居専用地域、 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域、 第2種中高層住居専用地域	一般地域	55デジベル以下	45デジベル以下
	2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60デジベル以下	55デジベル以下
第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域	一般地域	55デジベル以下	45デジベル以下
	2車線以上の車線を有する道路に面する地域	65デジベル以下	60デジベル以下
近隣商業地域 商業地域 準工業地域	一般地域	60デジベル以下	50デジベル以下
	車線を有する道路に面する地域	65デジベル以下	60デジベル以下

この場合において、幹線交通を担う道路に近接する空間については、上表にかかわらず特例として次表のとおりとする。

昼間（6～22時）	夜間（22時～6時）
70デシベル以下	65デシベル以下

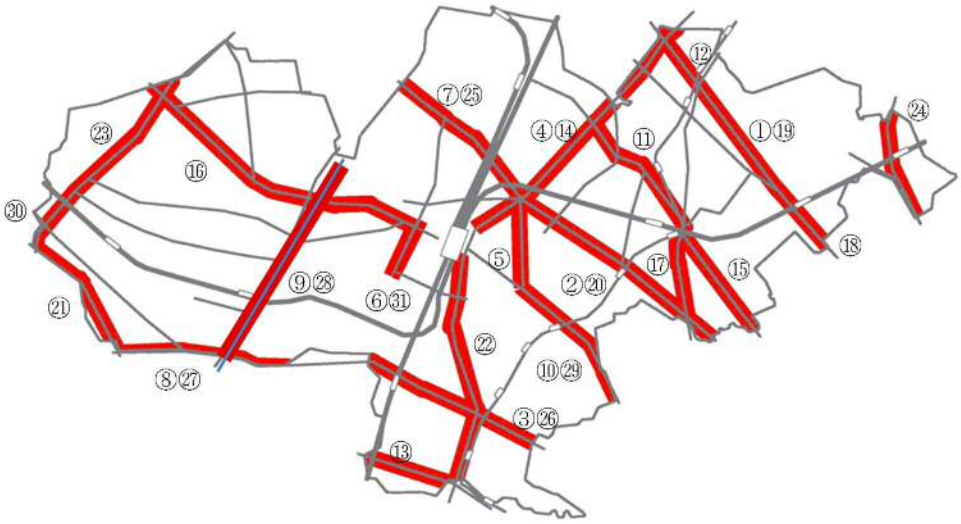
「幹線交通を担う道路」とは、高速自動車国道、一般国道、都道府県道、及び市町村道（市町村道にあっては4車線以上の区間に限る）等を表し、「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、車線数の区分に応じて道路端からの距離によりその範囲を特定する。
・2車線以下の車線を有する道路　　15メートル
・2車線を超える車線を有する道路　　20メートル

道路の環境基準達成状況

測定年度	道路名		起点	終点	車線数	用途地域	騒音(ﾃﾞｼﾞﾍﾞﾙ)		達成率(%)	
							昼間	夜間	昼間	夜間
26年度	①	白山通り	巣鴨3-32	西巣鴨3-4	4	商業	73	70	93.6	91.8
	②	春日通り	東池袋5-52	東池袋3-7	4	商業	67	65	99.9	99.7
	③	目白通り(都道8号)	高田1-40	目白3-5	4	商業	70	67	90.1	80.3
	④	明治通り	東池袋2-61	西巣鴨3-27	4	商業	68	65	100.0	100.0
	⑤	日出通り	南池袋2-49	東池袋1-33	6	商業	69	67	95.0	90.1
	⑥	劇場通り	西池袋3-1	西池袋3-28	4	商業	65	63	100.0	100.0
27年度	⑦	川越街道	池袋本町1-6	池袋4-36	6	商業	72	70	82.6	74.3
	⑧	目白通り(都道8号)	南長崎4-4	目白5-3	2	近商	65	63	100.0	99.2
	⑨	山手通り	南長崎1-1	高松1-22	4	商業	67	66	99.9	90.0
	⑩	日出通り	雑司が谷1-52	南池袋4-7	4	商業	71	69	88.1	60.5
	⑪	宮仲公園通り	上池袋1-39	北大塚1-16	2	商業	66	62	100.0	100.0
28年度	⑫	白山通り	西巣鴨3-4	西巣鴨4-14	6	商業	70	69	99.8	77.7
	⑬	新目白通り	高田3-23	高田3-29	5	準工	67	66	98.9	90.7
	⑭	明治通り	南池袋1-28	西巣鴨4-15	4	商業	68	66	100.0	96.4
	⑮	プラタナス通り	南大塚2-1	南大塚2-46	2	近商	63	59	100.0	100.0
	⑯	要町通り	要町1-1	要町3-59	4	近商	60	58	100.0	99.7
	⑰	南大塚通り	南大塚2-35	南大塚2-45	4	商業	63	60	100.0	100.0
29年度	⑱	白山通り	巣鴨1-21	巣鴨2- 9	8	商業	69	66	100.0	98.5
	⑲	白山通り	巣鴨3-32	西巣鴨3-4	4	商業	73	70	97.4	96.9
	⑳	春日通り	東池袋5-52	東池袋3-7	4	商業	66	64	100.0	100.0
	㉑	目白通り(放7)	南長崎4-5	南長崎6- 8	4	近商	66	59	99.8	98.9
	㉒	明治通り	高田3-23	南池袋1-28	4	商業	63	61	100.0	99.7
	㉓	千川通り	南長崎6-8	要町3-58	2	近商	64	61	97.6	91.4
	㉔	本郷通り	駒込1- 1	駒込2- 8	4	商業	68	65	99.8	99.5
30年度	㉕	川越街道	東池袋1-47	池袋4-36	6	商業	73	71	74.8	71.6
	㉖	目白通り(都道8号)	高田1-40	目白3-5	4	近商	69	67	100.0	94.9
	㉗	目白通り(都道8号)	南長崎4-4	目白5-3	2	近商	65	64	100.0	99.5
	㉘	山手通り	南長崎1-1	高松1-22	4	商業	67	66	95.7	88.5
	㉙	日出通り	雑司が谷1-52	南池袋4-7	4	商業	71	69	84.2	53.4
	㉚	千川通り	南長崎6-13	南長崎6-10	2	近商	64	61	98.9	82.6
	㉛	劇場通り	西池袋2-36	西池袋1-17	4	商業	64	62	100.0	100.0

※ 用途地域は、第一中高:第一種中高層住居専用地域、近商:近隣商業地域、商業:商業地域、準工:準工業地域

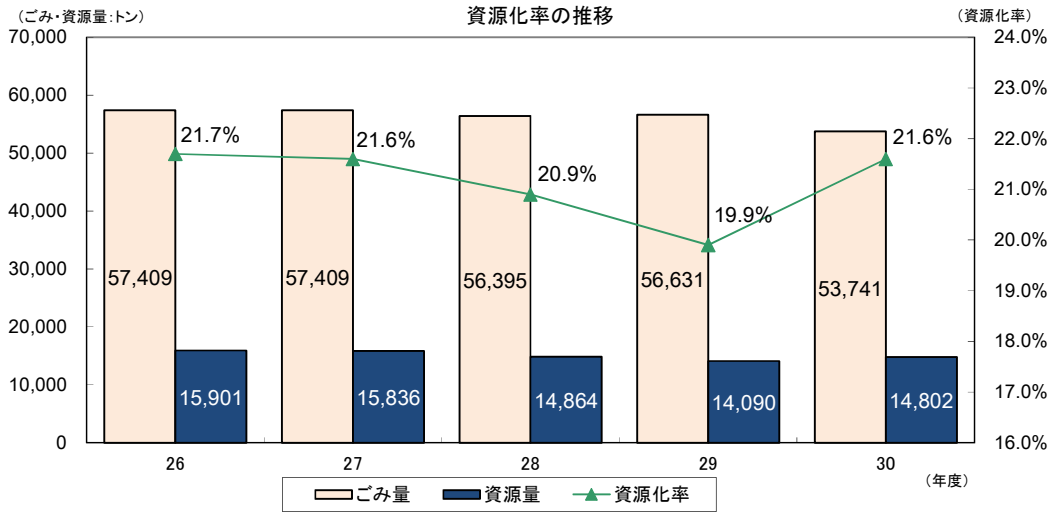
出典:環境保全課作成資料



３．ごみ減量・清掃事業の推進

１．資源化率の推移

近年、ごみ量・資源回収量・資源化率は減少傾向にあったが、平成 30 年度から不燃ごみの資源化事業を開始したため、資源量・資源化率が増加している。

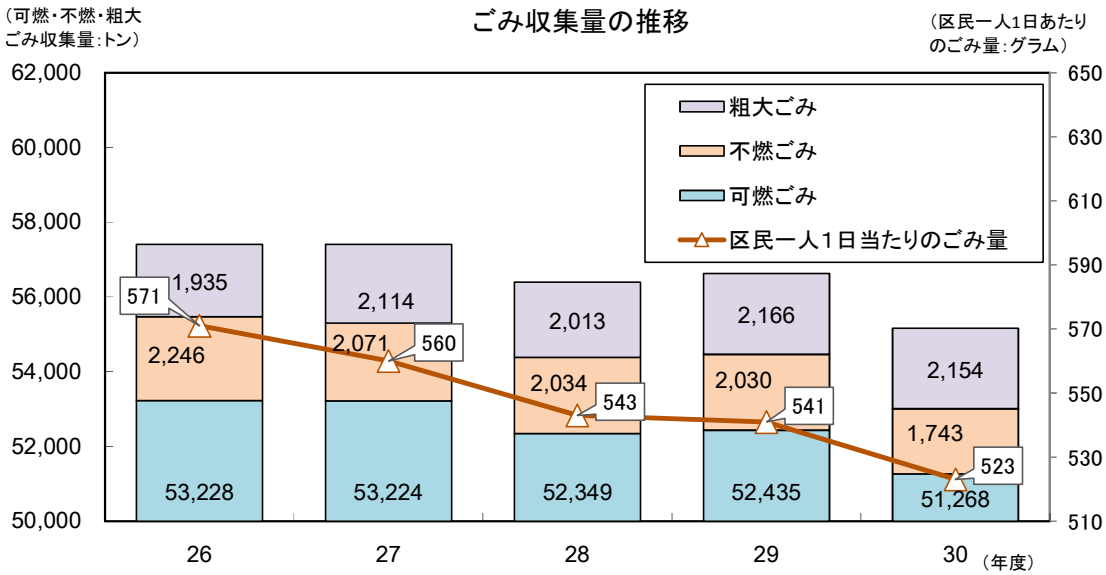


※事業系リサイクルと公園回収を除く実績値。

出典：ごみ減量推進課作成資料

２．ごみ量の推移

人口は増加しているが、ごみ収集の総量が減少傾向にあるため、区民一人１日あたりのごみ量が大幅に減少している。



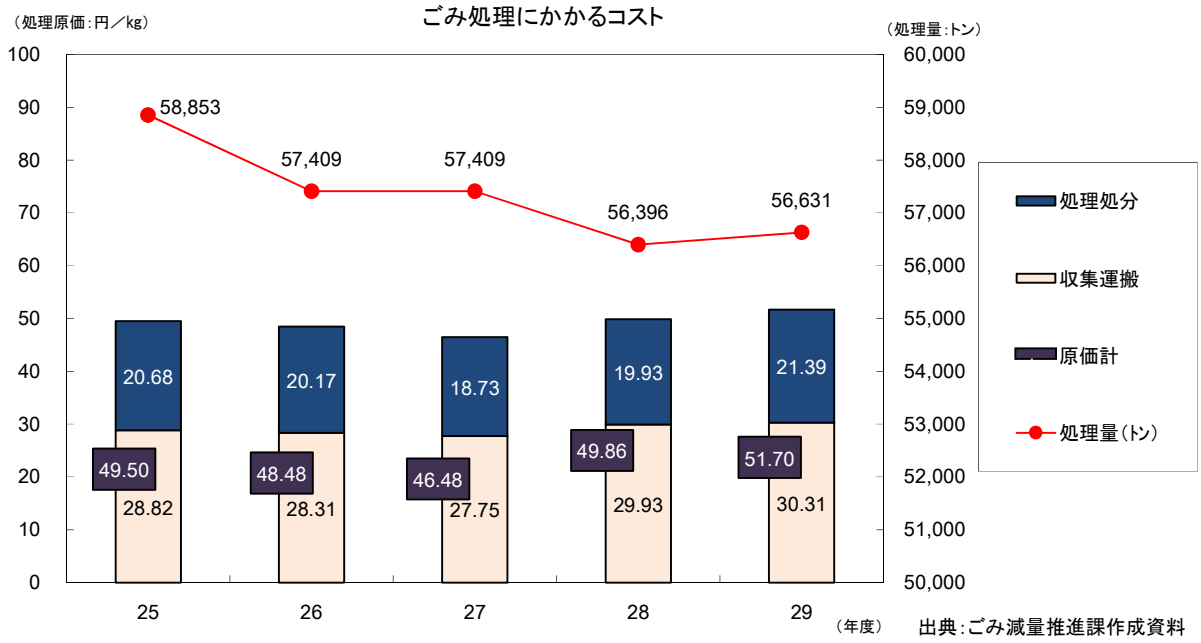
出典：ごみ減量推進課作成資料

【基本計画2016-2025　施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度〈現状〉	平成32年度〈前期目標〉	平成37年度〈後期目標〉
区民一人１日あたりのごみ量	571g	516g	462g

３．ごみ処理のコスト

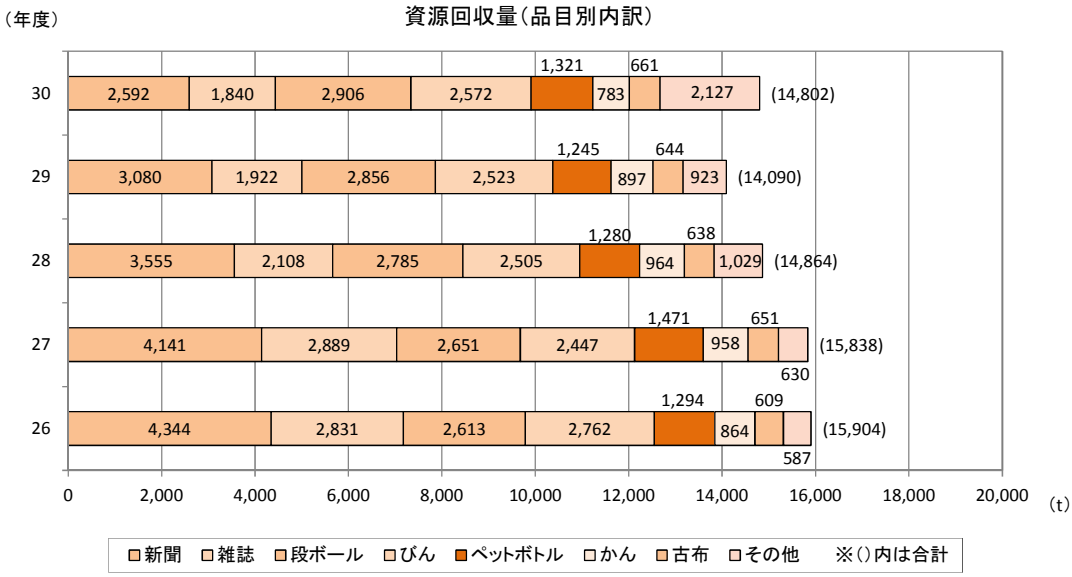
ごみ処理コストは、ごみ処理に要した経費をごみ量で除して算出している。ごみ量の減少傾向に伴い、作業計画の見直しや車輌台数の削減など、ごみの収集・運搬の効率的な運営を図ることでごみ処理コストの削減に努めている。その結果、ごみ処理のコストはほぼ横ばいである。



出典：ごみ減量推進課作成資料

４．資源回収量（品目別内訳）

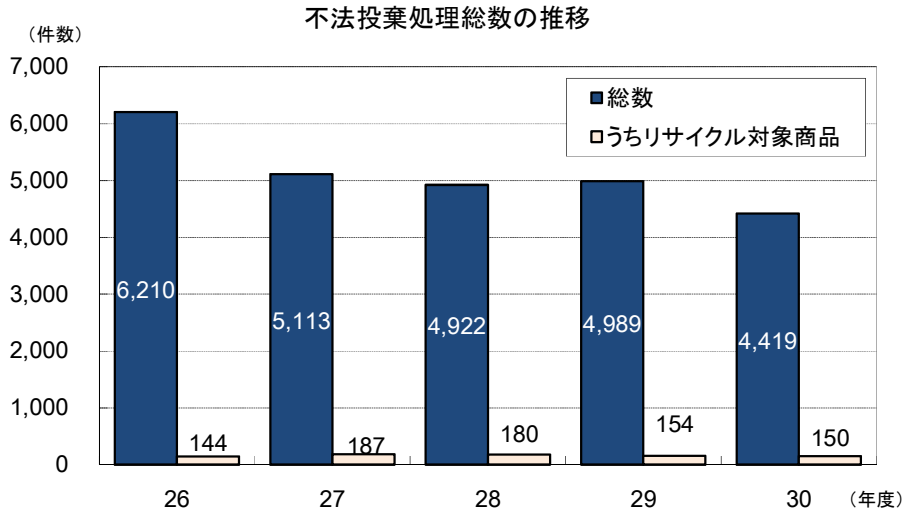
資源回収量は近年減少傾向になっていたが、平成 30 年度より不燃ごみの資源化事業を開始したため、増加している。



出典：ごみ減量推進課作成資料

５．不法投棄処理状況

平成 26 年度までは、増加傾向にあった不法投棄処理件数が、27 年度以降減少傾向にある。また、リサイクル対象商品については、平成 27 年度をピークに僅かながら減少している。



出典：豊島清掃事務所資料

不法投棄処理品目上位5位（数字は個数）

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1位	布団　(1,328)	布団　(1,499)	布団　(1,402)	布団　(1,227)	布団　(969)
2位	敷物　(461)	敷物　(441)	敷物　(339)	椅子　(275)	スーツケース　(314)
3位	椅子　(197)	椅子　(350)	椅子　(253)	スーツケース　(261)	椅子　(286)
4位	スーツケース　(196)	スーツケース　(264)	スーツケース　(223)	敷物　(256)	敷物　(181)
5位	テレビ　(90)	テレビ　(92)	衣装ケース　(145)	板類　(124)	板類　(142)

出典：豊島清掃事務所資料